

# “至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2018 第5号

## 1. 快挙相次ぐ！

第4号でバスケット部インターハイベスト4の件について書いたが、続いて福井国体においてハンドボール部が全国優勝の快挙を成し遂げた。壮行会では「インターハイのリベンジを！」と話した（インターハイの全国ベスト16だって大したものなのだが）が、リベンジどころか決勝戦ではインターハイ優勝の校成学園を中心とした東京を破って文句なしの日本一に輝いた。国体としてはこのあとに続くテニス部、空手部にも弾みをつけただけでなく、冬の全国大会を目指す陸上部（高校駅伝）、バスケット部（ウインターカップ）、バレー部（春の高校バレー）、バトン部（全国大会）にも大きな勇気を与えてくれた。これらの大会は3年生にとって高校生活のフィナーレを飾る大会になるだけに部員たちのさらなる活躍と全校生徒への朗報を届けてくれることを期待する。

夏に関西と中京の本校同窓会に出席したが、その中で紹介されていたのが昨年のテニス部の全国制覇のニュースであった。この快挙以前に四日市商業がスポーツで全国優勝したのは98年前までさかのぼるようで、ほぼ1世紀ぶりのビッグニュースに会場のOBたちは大いに沸き立っていたが、その後わずか2年でテニス部全国選抜個人優勝、そして今回の福井国体のハンドボール全国制覇と3回も日本一を成し遂げるとは……。11月18日の四日市での本部同窓会では再び大いに盛り上がることだろう。

また、商業系のクラブでも9月8日に東海地区高等学校商業実務総合競技大会・三重県予選が行われ、今年も本校が圧倒的な強さを発揮してきた。簿記・珠算・電卓・英文ワープロ・日本語ワープロの5競技は団体での連覇を継続（何連覇かは私はわかりません）、東海大会への進出を決めた。個人の部でも多くの競技で優勝する中で、特筆すべきは情報処理の部（この競技は宇治山田商業が団体・個人とも圧倒的に強く夏の全国大会でも優勝して三重県に唯一優勝旗を持ち帰っている）で、団体では山商の後塵を拝したものの、個人の部では2年生の〇〇さんが山商の全国チャンピオンに勝って見事に優勝を果たしてくれた。代表になったみなさんは、本選（11月4日 東海商業）においても三重県代表として全国トップレベルの選手たちと（東海地区はめちゃくちゃレベルが高く、東海で優勝すれば全国でもトップになるケースが多い）堂々と戦ってきてほしい。

## 2. 「ホンモノ体験」紹介

第4号で「キャリア教育」の本質について確認するとともに、新学習指導要領との整合性、具体的にどのような実践をしていけばいいのかなどを示した。私は授業をやっているわけでも

なく生徒の皆さんとの接点が少ない（これは悲しいことである）のでひとり一人について確信を持って言えるわけではないが、その変化は少しずつ感じてきている。例えば『掃除』に関して。「隅」や「細部」に気を付ける人が増えて、廊下にほこりが落ちているケースが減ってきている。また、窓の棧や壁のホコリを雑巾で拭いている人を見かけるようになった。例えば『挨拶（あいさつ）』に関して。たんに挨拶をするという習慣だけでなく、挨拶をする時の表情が豊かになってきているのを感じる（これは3年生の就職等の面接指導や社会人になる時期が近づいてきていることが大きいのかかもしれない）。先日来、就職試験が真っ盛りということもあり、いろいろな企業の方たちと面会し、話をさせてもらっている。その中で多くの方がおっしゃるのは「今年は自分の言葉で語る生徒が多い」ということである。本当ならうれしいことだ。

もちろん、これらはまだまだ一部の生徒の実践にとどまるのだと思う。しかし、ひとり一人の「気づき」の力が向上し、自ら考え行動する主体性が徐々にでもついていっているなら素晴らしいことだ。そのために3年生の課題研究だけでなく、1、2年生も「ホンモノ体験」の機会をぜひ積極的に利用してほしい。

地域を活性化する、そのために高校生の参加を求める。このような機会が全国的に増えてきている。私はとてもいいことだと思う。さまざまな年代の人たち、さまざまな価値観を持った人たちと交流することがお互いに刺激になり新たな知識・情報を吸収し、高めあう。教室の中での授業や学校内で限られた仲間との付き合いの中だけでは得ることのできない“何か”を吸収することができる。それは皆さんにとってもプラスになるし、外部の人たちにとっても同様である。新学習指導要領で重視される「社会に開かれた教育課程」とはそのようなものだ。ギタマン、吹奏楽、バトン。これらの部活は地域や同窓会、教育関係団体等のイベントにゲストとして引っ張りだこである。今年も名古屋の同窓会や地域の敬老会やフェスティバルなどで演奏、パフォーマンスを披露してくれているが、とても評判がよい。これらは「世のため、人のため」の社会貢献にもなっているし、同時に自分たちの資質・能力を高めるためにも大いに役立っている。文化祭にも毎年参加してくれている「西日野にじ学園」との交流も素晴らしい取り組みだ。1学期の交流行事にはソフト部が毎年参加してくれているが、ぜひともこれからも続けてほしいし、有志の生徒の参加ももっと増えてほしい。

本校はこのような「キャリア教育」への取り組みがとても進んでいる。ほかの高校ではできない経験ができているのはとても素敵なことだ。前にも書いたが、課題研究も含めて今後の社会で必要とされる能力を高める実践を積極的に行っていることは本当に素晴らしい。今後の教育改革の中で日本の最先端としてリードしていくのも夢ではないと思う（特に地方の公立高校が地方を活性化するという文脈において）。例えば、3年生の課題研究はつねにさまざまな年代の人たち（特に大人たち）と交流する中で、生きた経験を重ねることができている。私が話を聞いている範囲だけでも「洒商しょう介し隊」の各中学校における評価は非常に高いし、「イベントプロデュース」のパンフレットを持って小学校へ行ってもおおいに喜ばれる。「シテイ

マネジメント」「菰野学」の地域や行政との「志ある大人」との交流は高校生の力を伸ばすだけでなく、かかわっている「大人」の人たちの成長も促している。これらは間違いなく「ホンモノ体験」としてみなさんにとっての良質な「キャリア教育」になっているし、「大人度」を高めている。先に生徒の「気づき」が増え、挨拶の表情が豊かになっていると書いた。「自分の言葉で語る」就職試験の面接と言い、これらの多くは3年生の成長とつながっているのではないか。私自身は掃除の監督や面接練習など接するのがほとんど3年生だから余計にそのように感じるのかもしれないが、面接練習をしていても1回目に面接をし、アドバイスをする。2回目の練習までの伸び率が非常に大きい。これは皆さんの理解力(ポテンシャル)の高さもさることながら、先生方による的確なアドバイスに加えて「課題研究」等を通じて培われた経験が相乗効果を生んでいるのだと思う。

ただ、残念なのはこのような経験を1,2年生のうちから積んでいたなら、もっと高いレベルで実践を行えるのに…ということだ。また、「課題研究」を単なる「大人」との交流体験に終わらせず、「探究活動」のレベルまで高めるスキルを持っていたら(このスキルについてはまた別の機会に書こう)もっと地域に貢献できるだろうし、もっと人の幸せに、自分の幸せにつながるのではないか。もっと言えば、日ごろの共通教科の授業でも「英語の授業」「数学の授業」をやるという意識ではなく「英語の授業」を通じてコミュニケーション能力をつける、数学の授業を通じて論理的なものの考え方の力を上げる、といったように知識・情報も含めて力をつける意識で授業に臨めればさらに世界は広がってくるだろう。例えば、4技能の力(話す、書く、読む、聞く)を身に着け、実用英検の2級に合格できるだけの力をつければ(準2級や全商英検の1級でも)さらに自分の力をアップできるチャンスが出てくる。今後、四日市商業においてはこのような力を向上させるためのヒントとアドバイスが私の役割になってくるのだと思う。

すでに締め切ってしまったが、教室に「四日市市高校生議会」の案内と鳥羽で12月におこなわれる「地域活性化の高校生交流会」の案内は見てくれたかな。どちらも「志」ある「すげ〜」高校生との交流体験の(まさに「ホンモノ体験」の)機会だったのだが、残念ながら今回は希望者はいなかった。1,2年生、そして進路先が決まった今後の3年生。このあたりにターゲットを絞って行動する人が増えてくれば四日市商業はもとより、皆さんが今後生きていく四日市市や北勢地域を発展させることができるようになると私は考えている。11月にはビブリオバトルの北勢大会(18日=図書館から案内がある)、四日市まちなか文化祭(24日=シティマネジメントの講座生徒がプロデュース)、四日市プロボノワンディセッション(25日=四日市市役所主催の社会人の専門性を生かした問題解決イベント)などを近々案内する。やってみようと思う人はぜひとも勇気を出して校長室の扉をたたいてほしい。

(10月10日)